

氏名	善生 まり子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1991年北里大学看護学部、1999年北里大学大学院 看護学研究科 修士課程（健康看護学）、2018年北里大学大学院 看護学研究科 博士後期課程（看護生涯教育学）				
経歴	1991年学校法人北里研究所北里大学東病院消化器外科（看護師）、1992年富士宮市役所保健センター（保健師）、1996年秋田市医師会立秋田看護学校（専任教員）、1997年秋田大学医療技術短期大学部看護学科（助手）、1999年学校法人北里研究所北里大学東病院 治験管理センター（看護師：非常勤）、保健同人社 電話相談（保健師：非常勤）、2001年公立大学法人埼玉県立大学 保健医療福祉学部看護学科（助手）、2005年同大学（講師）、2014年同大学（准教授）、2021年同大学（教授）				
所属学会（役職）	日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護学会、日本在宅ケア学会、日本認知症ケア学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、日本老年看護学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本サルコペニアフレイル学会、日本地域看護学会、日本看護歴史学会、みんなの認知症情報学会、日本看護倫理学会、日本褥瘡学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	一般病棟における男性看護師のキャリア発達—男性看護管理者へのインタビュー調査から—	共著	あり		日本看護管理学会誌、28巻1号p153-163	兼原直弥、林裕栄、善生まり子、江口のぞみ
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	看護業務における個およびチームの安全行動を促すコミュニケーションロボットの効果	共同	第17回日本保健医療福祉連携教育学会、越谷市	○善生まり子、中嶋吉男、山田勝之、小田島淳一	2024年11月	
2	看護師の負担を軽減するコミュニケーションロボットの開発	共同	第17回日本保健医療福祉連携教育学会、越谷市	○中嶋吉男、善生まり子、山田勝之、小田島淳一	2024年11月	
3	看護業務のヒューマンエラーを未然に防ぐための小型ロボット共同開発と導入効果	共同	第44回日本看護科学学会学術集会	○善生まり子、真々田美穂、高瀬裕子、岩上広子、松元智恵子、原明子、阿部真純	2024年12月	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	草加市男女共同参画プラン2021 年次報告書及び達成状況の評価【令和5年度事業】「第2部 達成状況の評価」p45-54	共著	草加市ホームページ https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1402/010/020/010/R6nennzihyouka.pdf	○草加市市長、草加市男女共同参画委員（委員13名、うち善生まり子）	2025年2月	
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)	インクルーシブ高齢者ケアに係る看護チーム業務分担・協働を支援するAI導入実証研究	研究代表者	2022年4月～2025年3月		

2	公立大学法人埼玉県立大学共同研究	看護チームにおける心理的安全性を高めるためのAIロボット応用に関する研究	研究代表者	2024年4月～2025年3月
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅳ（地域ケアシステム）		8	老年看護学実習Ⅱの体験のリフレクションを通して、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割に関して、グループワーク・全体共有に関するファシリテーションを実施した。
2	IPW論（専門職連携実践論）① 博士前期課程		4	リアルタイム方式のオンライン学習により、「保健医療福祉分野における専門職連携教育（IPE）」を担当し、学生時代及び就業体験後のIPWの振り返りを促し、最終的な成果発表に寄与した。事例検討発表会及び全体討議のファシリテーションを行った。また、授業運営に積極的にかかわり科目責任者をサポートした。
3	老年看護援助論 博士前期課程	○	4	リアルタイム方式のオンライン学習により、退院調整をはじめとする高齢者の継続した療養生活に対する支援・システムなどを教授し、今後の老年看護援助の展望について討議した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学Ⅱ（援助技術）	○	15	科目責任者として、新型コロナウイルス感染症の流行状況及び大学方針を照らし合わせ、対面（高齢者模擬体験）とリアルタイム配信の講義・演習と組み合わせで授業を運営した。学生が、老年看護学実習Ⅱにおける実在の事例へ看護援助が行えるよう、先んじて、要介護状態にある高齢者への援助技術を多角的に学べるよう工夫した。老年看護学領域教員によるオムニバス形式の演習とした。活動能力が低下した高齢者への援助、認知症のある高齢者への援助、嚥下・口腔機能の低下した高齢者への援助、パーキンソン病のある高齢者の援助等、グループワーク、体験、講義聴講を組み合わせた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	老年看護学実習Ⅰ		2024年4月～6月	科目担当者として、実習施設である公立の老人福祉センターにおいて、学生が利用者とのコミュニケーションの機会、施設見学等を通して高齢者の心身・社会的側面の理解が深まるよう、実習指導者との連絡調整を密に行い、毎回のカンファレンスに参加した。
2	老年看護学実習Ⅱ	○	2024年10月～12月	科目責任者として、実習施設への依頼・実習指導者会の運営、学生への実習オリエンテーション開催等、統括している。新型コロナウイルスなどの感染症の流行状況及び大学方針を照らし合わせ、各実習施設との綿密な連絡・調整により、臨地（医療機関または介護老人保健施設）での実習を行っている。学生の受け持つ事例（高齢患者）の選定及び、臨床現場での学生の看護援助、各種カンファレンス運営は、実習指導者と教員共に行い、学生の主体性が伸びるよう、実践中及び実践後のリフレクションをファシリテートしている。1クール2週間、学生5～6名を担当し、それを4クール行った。
3	総合実習		2024年4月～7月	学生の主体的な学習態度を形成でき、実習展開を促進する目的で、文献抄読会及び実習計画作成等のゼミを6回行い、個別・グループ指導した。対面実習のため、実習指導者との事前連絡調整を綿密に行い、学生の看護実践能力に関わる課題および実習目標を共有し、実習のあり方について相互に理解できるよう努めた。

4	IPW実習		2024年8月	施設FTおよび同施設の教員FTと協力して臨地実習の準備に取り組んだ。2チーム学生10名が協力し合えるよう、学びが深められるようにリーダーとして調整した。	
(4) 論文指導					
	対象		期間	主旨指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		2024年4月～2025年1月	主旨指導 4名	副指導 0名
2	修士論文		2024年4月～2025年3月	主旨指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 1名
(5) その他					
	名称		期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし				
4. 社会貢献活動					
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師					
	講演会、研修会、公開講座等の名称		主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	メディカルトピア草加病院看護研究指導（対面開催）		メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題について、看護研究指導を行った。院内の研究発表後、院外の学術集会または研究会への発表、論文作成を支援した。	2024年4月～7月、2025年1月～3月
2	メディカルトピア草加病院看護研究発表会講評（対面開催）		メディカルトピア草加病院看護部	4つの看護研究課題（看護係長、2つの病棟、外来）について、院内研究発表の講評を行った。	2024年7月
3	埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座「チームビルディング研修」		埼玉県立大学	教員6名で分担して担当。2回コース。研修のリーダーとして企画・運営・講師を実施した。講師として、チームおよびチームビルディングの理論と背景、演習を担当した。	2024年5月
4	埼玉県立大学 専門職連携を学ぶ講座「多職種のためのIPW実践事例研修」		埼玉県立大学	教員5名で担当。研修運営・講師を担当した。講師として、IPWとリフレクションを担当した。	2024年10～12月
5	看護学科の臨地実習教育協議会		埼玉県立大学	看護学科の実習計画調整会長として、協議会の企画・運営、評価にかかわり、学内企画委員、学外企画委員、本学事務局の参加、位置付けなど調整した。臨床の参加者11名、本学事務局・看護学科教員の参加者計約60名。	2024年9月
6	看護学科の臨地実習指導者研修会		埼玉県立大学	5年ぶりに対面で実施した。看護学科の実習計画調整会長として、研修会の企画・運営、評価にかかわり、講師やテーマ設定など改善点を提案した。参加者約40名。	2025年1月
7	産学連携と研究シーズ（Web・冊子）		埼玉県立大学	看護チーム連携とインクルーシブケア促進の研究を紹介している。	2024年4月
8	社会福祉法人誠会及びNPO法人誠会の職員研修「チームビルディング研修」		社会福祉法人誠会・NPO法人誠会合同	各法人誠会の要望に応じて、すべての職員のチームビルディング研修を2回実施した。1回につき同内容を3回×2。講師5名。講師役の他、企画・運営・プログラムを提案するなど、リーダー役割を担った。参加者約60名。	2024年12月、2025年1月
9	令和6年度公立大学協会看護・保健医療部会総会 看護・保健医療分科会合同企画「公立大学における多職種（専門職）連携教育の取り組み」		公立大学協会看護・保健医療部会	令和6年度公立大学協会看護・保健医療部会総会にて「公立大学における多職種（専門職）連携教育の取り組み」を講演した。参加者約100名	2024年8月
10	第17回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会の実行委員		日本保健医療福祉連携教育学会	一般演題全般を担当し、演題登録から査読まで実施した。当日運営にてパネルディスカッションの準備・片付けを担当した。主担当。	2024年4月～11月

11	令和6年度 埼玉未来大学「介護を考える」	公益財団法人 いきいき埼玉	講演の主な内容は、「介護する側と介護される側の双方についての理解を深めるとともに、自分ごととして介護について考えることを目指す。」である。講演後の複数の質問にも対応した。参加者約120名。講演内容は録画されており、講演後に約1か月間、会員限定で配信された。	2025年1月
12	浜松市立看護専門学校、静岡医療科学大学 学校理学療法学科教員対象の合同研修 「専門職連携教育研修」	浜松市立看護専門学校	左記2つの学校合同授業「多職種連携」の授業のリフレクションとなるよう、専門職連携教育の背景、本学の事例紹介、演習などを実施した。講師3名。講師役の他、企画・運営・プログラムなど、リーダー役割を担った。	2025年3月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	草加市総合政策部 人権共生課		草加市男女共同参画審議会副会長	2019年4月～2025年3月
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称		内容	年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	産業支援	ラジエンスウエア社	埼玉県立大学共同研究「一般病院の看護業務におけるAIロボット応用に関する研究」を通して、ラジエンスウエア社による看護業務のサポートロボットの開発を支援している。毎月1回定例ミーティング（オンライン）開催。	2022年4月～2025年3月
2	地域貢献活動	富士宮市中心身障害児家族会 さんざしの会	さんざしの会の賛助会員として会の活動をサポートしている。	通年
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	IPEセンター員として、専門職連携を学ぶ講座の取りまとめ役を担当した。		2024年4月～2025年3月
2	学科等における委員会等	看護学科実習計画調整会長として活動した。		2024年4月～2025年3月
3	学科等における委員会等	看護学科ハラスメント防止プロジェクトチームとして活動した。		2024年4月～2025年3月
4	大学広報活動	「2024年度オープンキャンパス 学科説明動画」を作成した。		2024年4月～2025年3月
5	全学的委員会及びセンター業務等	教員人事委員会における資格審査会委員を1件担当した。		2024年10月～11月
6	全学的委員会及びセンター業務等	昇任に係る教員人事委員会委員を担当した。		2024年10月～12月
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			